

120614 スジグロチョウ

今回は、今週、大和葛城山系の林道沿いで見つけた「スジグロチョウ」を紹介します

日本を代表するようなチョウは？ と問われれば、「モンシロチョウ」と答える方も多いのではないかと思います。

「スジグロチョウ」も、このポピュラーな「モンシロチョウ」によく似ています。飛んでいる姿だけを見ても、どちらの種なのか迷ってしまうこともあるくらいです…では、どちらも大昔から日本に生息していたのかと言えば…

古来から日本に生息していたのは「スジグロチョウ」の方で、一方の「モンシロチョウ」は江戸時代以前にはほとんど記録が残っていないようです。

どうやら、モンシロチョウの“ふるさと”はヨーロッパであると考えられており、中国を経て日本に入ってきたみたいです。

彼らの幼虫の大好物はキャベツなどの野菜の葉っぱですので、野菜の栽培が広がって行くにつれて、生息域を広げていったのでしょね。

一方の古来からの“在来種”であるスジグロチョウは、主に雑草を食べる“ナチュラルスト”と言えましょう。(畑にはほとんど現れません)

そして都市化の進展とともに姿を消していったのですが…

最近では、自然の残る山野だけでなく、街中でも見るできるようになってきました。

◆写真①： 林道沿いの野草にとまる「スジグロチョウ」の♀

◆写真②： 同じく、葉っぱの上で羽を休めていると…

◆写真③： 後方から♂が飛来！

◇葉の上にいる♀は…

◇いち早く♂の接近を察知して、お尻を上を持ち上げた姿勢…

◇これが“交尾拒否”の姿勢なのです。

◆写真④： ♂が♀の真横に着地するも… (左が♂、右が♀)

◆写真⑤： ♀の拒否の姿勢は頑な…

◇あきらめた♂は飛び去っていきました。(写真の左上に去りゆく♂の影が…)

◇♀はお尻をほぼ垂直に持ち上げていますね…

◇以前に交尾の経験のある♀は、その後別の♂に求愛されてもこのポーズで拒否するのだそうです。

◆写真⑥： その後、この♀は野草に産卵











